

Veritas NetBackup™ アップ グレードクイックスタートガイド

VERITAS™

Veritas NetBackup™ アップグレードクイックスタートガイド

最終更新日: 2018-03-28

マニュアルバージョン: NetBackup 8.1.1

法的通知と登録商標

Copyright © 2018 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、NetBackup は Veritas Technologies LLC または同社の米国とその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、サードパーティの所有物であることをベリタスが示す必要のあるサードパーティソフトウェア（「サードパーティプログラム」）が含まれている場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。このベリタス製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所で入手できます。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載されている製品は、その使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されます。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

本書は、現状のまま提供されるものであり、その商品性、特定目的への適合性、または不侵害の暗黙的な保証を含む、明示的あるいは暗黙的な条件、表明、および保証はすべて免責されるものとします。ただし、これらの免責が法的に無効であるとされる場合を除きます。Veritas Technologies LLC は、本書の提供、内容の実施、また本書の利用によって偶発的あるいは必然的に生じる損害については責任を負わないものとします。本書に記載の情報は、予告なく変更される場合があります。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、FAR 12.212 の規定によって商用コンピュータソフトウェアと見なされ、場合に応じて、FAR 52.227-19「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202、「Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation」、その後継規制の規定により制限された権利の対象となります。業務用またはホスト対象サービスとしてベリタスによって提供されている場合でも同様です。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC
500 E Middlefield Road
Mountain View, CA 94043

<http://www.veritas.com>

テクニカルサポート

テクニカルサポートは世界中にサポートセンターを設けています。すべてのサポートサービスは、お客様のサポート契約およびその時点でのエンタープライズテクニカルサポートポリシーに従って提供されます。サポートサービスとテクニカルサポートへの問い合わせ方法については、次の弊社の **Web** サイトにアクセスしてください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP.html

次の URL で Veritas Account の情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

既存のサポート契約に関する質問については、次に示す地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

世界全域 (日本を除く)

CustomerCare@veritas.com

Japan (日本)

CustomerCare_Japan@veritas.com

マニュアル

マニュアルの最新バージョンがあることを確認してください。各マニュアルには、2 ページに最終更新日付が記載されています。最新のマニュアルは、次のベリタス **Web** サイトで入手できます。

<https://sort.veritas.com/documents>

マニュアルに対するご意見

お客様のご意見は弊社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの誤謬脱漏などの報告をお願いします。その際には、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。ご意見は次のアドレスに送信してください。

NB.docs@veritas.com

次のベリタスコミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問することもできます。

<http://www.veritas.com/community/ja>

ベリタスの Service and Operations Readiness Tools (SORT) の表示

ベリタスの Service and Operations Readiness Tools (SORT) は、時間がかかる管理タスクを自動化および簡素化するための情報とツールを提供する **Web** サイトです。製品によって異なりますが、SORT はインストールとアップグレードの準備、データセンターにおけるリスクの識別、および運用効率の向上を支援します。SORT がお客様の製品に提供できるサービスとツールについては、次のデータシートを参照してください。

https://sort.veritas.com/data/support/SORT_Data_Sheet.pdf

目次

第 1 章	『NetBackup クイックスタートアップグレードガイド』 について	5
	『NetBackup クイックスタートアップグレードガイド』について	5
第 2 章	Windows アップグレードクイックスタートガイド	6
	NetBackup 8.1.1 へのアップグレードのプレインストール手順	22
	Windows システムでローカルサーバー、リモートサーバー、クラスタサー バーのアップグレードを実行する	9
	NetBackup 8.1.1 へのアップグレードのインストール後の手順	27
第 3 章	UNIX/Linux アップグレードクイックスタートガイド	22
	NetBackup 8.1.1 へのアップグレードのプレインストール手順	22
	NetBackup 8.1.1 への UNIX/Linux サーバーソフトウェアのアップグレー ド	25
	NetBackup 8.1.1 へのアップグレードのインストール後の手順	27

『NetBackup クイックスタートアップグレードガイド』について

この章では以下の項目について説明しています。

- 『NetBackup クイックスタートアップグレードガイド』について

『NetBackup クイックスタートアップグレードガイド』について

このマニュアルの目的は、『NetBackup アップグレードガイド』を経験豊富なユーザーに向けて補足することです。このマニュアルの使用は、初心者または経験の浅い NetBackup 管理者には推奨されません。経験の浅い管理者は、『NetBackup アップグレードガイド』を使用してください。

このマニュアルに記載の情報は、ユーザーがアップグレードの前提条件をすでに読み、理解していることを前提としています。ユーザーが必要な計画手順をすでに実施しており、アップグレードにかかる時間を把握していることを前提としています。ユーザーが『NetBackup リリースノート』に記載されている変更をすべて把握していることを前提としています。

注意: このマニュアルの使用中に不明な手順や手続きがあったり、疑問が生じたりしたときは、『NetBackup アップグレードガイド』で詳しい情報を参照してください。『NetBackup アップグレードガイド』には、アップグレードプロセスのすべての分野について詳しい情報が記載されています。

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.DOC5332

Windows アップグレードク イックスタートガイド

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 8.1.1 へのアップグレードのプレインストール手順](#)
- [Windows システムでローカルサーバー、リモートサーバー、クラスターサーバーのアップグレードを実行する](#)
- [NetBackup 8.1.1 へのアップグレードのインストール後の手順](#)

NetBackup 8.1.1 へのアップグレードのプレインス トール手順

次の手順を使って環境を NetBackup 8.1.1 にアップグレードします。

ベリタス社は、ガイド付き方式に必要な追加手順を実行できるようにするツールを開発しました。詳しくは、**Business Critical Services (BCS)** の担当者に連絡してください。

メモ: NetBackup マスターサーバーをバージョン 8.1.1 に更新する前に NetBackup OpsCenter をバージョン 8.1.1 に必ず更新してください。OpsCenter のデータ収集を無効にする必要もあります。詳しくは、『NetBackup OpsCenter 管理者ガイド』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

64 ビットの Windows プラットフォームで OpsCenter をアップグレードする場合には既知の問題があることに注意してください。言語パックまたは Maintenance Pack をインストールしている場合は、アップグレードに失敗する可能性があります。この問題に関する詳しい情報を参照できます。

<http://www.veritas.com/docs/TECH211070>

特定のマスターサーバーの OpsCenter データ収集を無効にすることができます。データ収集を無効にする場合は、OpsCenter サーバーの前にマスターサーバーをアップグレードできます。データ収集を無効にすると、既知の問題が発生します。データ収集の無効化とそのリスクに関して詳細情報を参照できます。

『ベリタス NetBackup アップグレードガイド』を参照してください。

メモ: Global Cluster Option (GCO) を使ってグローバルにクラスタ化されたマスターサーバーを含む NetBackup のインストールでは、このマニュアルのアップグレード計画のガイドラインに従ってください。これらのサーバーをアップグレードする手順については、次のドキュメントを参照してください:

https://www.veritas.com/support/en_US/article.100041191

NetBackup 8.1.1 にアップグレードしてイメージメタデータの移行を完了するためのインストール前手順

- 1 SORT ツールを使用して環境チェックを実行します。
『ベリタス NetBackup アップグレードガイド』を参照してください。
- 2 NetBackup の各自の環境に応じて通常実行するアップグレード前のタスクを実行します。次に例を示します。
 - すべてのカスタマイズされたスクリプトやサードパーティのスクリプトを停止します。
 - クラスタ固有のタスクを実行します。
 - ホットカタログバックアップを実行します。
 - このマスターサーバーの OpsCenter データ収集機能を無効にします。
 - すべてのストレージライフサイクルポリシー (SLP) を無効にします。
 - NetBackup のすべてのポリシーを無効にします。

- NetBackup 7.5.x より前のすべての環境ですべてのディスクステージングストレージユニットを無効にします。
- クラスタシステムの場合のみ、次の NetBackup リソースをオフラインにします。
 - Windows Server Failover Clusters (WSFC): ディスク、仮想名、仮想 IP アドレスを除くすべての NetBackup グループのリソースをオフラインにします。クラスタアドミニストレータインターフェースを使用して NetBackup グループのリソースをオフラインにする方法については、Microsoft のクラスタアドミニストレータに関するマニュアルを参照してください。
 - Veritas Cluster Server (VCS) クラスタ: NetBackup リソースをオフラインにします。

次のコマンドで `-persist` オプションを使用して NetBackup グループを固定します。

```
hagr -freeze NetBackup_service_group -persistent
```

これらのリソースをオフラインで取得するコマンドについては、『Veritas NetBackup マスターサーバーのクラスタ化管理者ガイド』を参照してください。

- 3 (該当する場合) NetApp クラスタをノードスコープモードから Vserver モードに変更する場合は、各ファイラの詳しいイメージレポートを作成します。このレポートは `bpimagelist` コマンドを使って生成できます。次に利用可能なオプションの一例を挙げます。環境に合わせて必要なオプションを使います。

```
bpimagelist -client ndmp_host_name
```

- 4 NetBackup 8.0 より、NetBackup マスターサーバーには、重要なバックアップ操作をサポートするための構成済み Tomcat Web サーバーが含まれます。この Web サーバーは、権限が制限されているユーザーアカウント要素の下で動作します。これらのユーザーアカウント要素は、各マスターサーバー (またはクラスタ化されたマスターサーバーの各ノード) で使用できる必要があります。詳細情報を参照できます。

『Veritas NetBackup アップグレードガイド』を参照してください。

メモ: Veritas は、NetBackup Web サービスに使用するユーザーアカウントの詳細を保存することを推奨します。マスターサーバーのリカバリでは、NetBackup カタログのバックアップが作成されたときに使われたものと同じ NetBackup Web サービスのユーザーアカウントとクレデンシヤルが必要です。

メモ: セキュアモードで NetBackup PBX を実行する場合は、Web サービスユーザーを PBX の権限を持つユーザーとして追加します。PBX モードの判別と、正しくユーザーを追加する方法について詳しくは、次をご覧ください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.000115774

- 5 NetBackup とやり取りするシステムのすべてのアプリケーションを停止します。この手順には、バックアップ中のデータベースまたはシステムコンポーネントが含まれます。これらのアプリケーションの停止に失敗すると、予期しない動作が発生する可能性があります。観測される動作には中止されたアップグレードやアプリケーションエラーが含まれます。

Oracle ユーザーの場合、アップグレードする前にデータベースおよびリスナープロセスを停止する必要があります。

Oracle データベースを停止できない場合、手順は Oracle データベースがアクティブのまま NetBackup をインストールできる手順を利用できます。このトピックに関する詳細情報を参照できます。

<http://www.veritas.com/docs/TECH158276>

- 6 NetBackup のすべてのサービスを停止します。

- UNIX システムの場合: `/usr/openv/netbackup/bin/bp.kill_all`
- Windows システムの場合: `install_path¥NetBackup¥bin¥bpdwn -f`

プレインストール手順は完了です。NetBackup のバイナリのアップグレードに進みます。

Windows システムでローカルサーバー、リモートサーバー、クラスタサーバーのアップグレードを実行する

ローカルコンピュータ、リモートコンピュータ、クラスタコンピュータで NetBackup 8.1.1 にアップグレードするには次の手順を実行します。

Windows でローカルサーバー、リモートサーバー、クラスタサーバーの NetBackup バイナリをアップグレードする方法

- 1 NetBackup のアップグレードを開始するシステムにログオンします。管理者権限でログオンしてください。
 - ローカルの Windows システムをアップグレードする場合は、コンソールでコンピュータに直接ログオンします。
 - リモートの Windows システムをアップグレードする場合は、NetBackup をインストールするホストすべてにネットワークアクセスが可能なシステムにログオンします。
 - クラスタの Windows システムをアップグレードする場合は、アクティブノード (共有ディスクが存在するノード) にログオンします。
- 2 次の方法のいずれかを使用して、NetBackup インストールウィザードを起動します。
 - DVD メディア

ドライブに Windows 版 NetBackup の DVD を挿入します。自動再生機能が無効になっている場合は、DVD ドライブに移動して `Browser.exe` を実行します。

- ESD イメージ (ダウンロード済みファイル)
 イメージが存在するディレクトリに移動して、`Browser.exe` を実行します。
- 3 ブラウザの初期画面 ([Home])で、[Installation]をクリックします。
 - 4 [Installation]画面で、[Server Software Installation]をクリックします。
 - 5 [ようこそ (Welcome)]画面で内容を確認し、[次へ (Next)]をクリックします。
 - 6 (該当する場合) 以前にこのホストに NetBackup 8.1.1 をインストールしている場合、[プログラムのメンテナンス (Program Maintenance)]ダイアログが表示されます。
 - [変更 (Modify)]を選択してローカルホストのインストール設定を変更するか、またはローカルホストをリモートホストへのプッシュインストールを実行するためのプラットフォームとして使用します。
 - [修復 (Repair)]を選択して、NetBackup 8.1.1 をローカルホストで元の状態にリストアします。
 - NetBackup 8.1.1 をローカルホストから削除するには、[削除 (Remove)]を選択します。
 - 7 [License Agreement]画面で、次の操作を行います。
 - [I agree to and accept the terms of the license agreement]にチェックマークを付けます。
 ソフトウェアをアップグレードするにはこの項目を選択する必要があります。
 - [次へ (Next)]をクリックします。
 - 8 [Veritas NetBackup Installation Type]画面で以下の情報を入力します。

Where to install	ローカルアップグレードの場合は、[Install to this computer only]を選択します。 リモートアップグレードの場合は、[Install to multiple computers on your network]を選択します。 クラスタアップグレードの場合は、[Install a clustered master server]が唯一のオプションです。
Typical	デフォルト設定の NetBackup をアップグレードするには、このオプションを選択します。
Custom	NetBackup のデフォルト設定を強制変更するには、このオプションを選択します。

[次へ (Next)]をクリックします。

9 [NetBackup License and Server Type]画面で、次の情報を入力します。

- ライセンス
 アップグレードの場合、すでにインストールされている製品のライセンスによって、選択可能なコンポーネントが決定されます。

メモ: リモートアップグレードの場合は、ここに入力したライセンスが他のノードにプッシュ型で転送されます。ライセンスによってアドオン製品を使用できるようになります。アドオン製品がすでにインストールされているノードに **NetBackup** をプッシュインストールした場合、ライセンスはアドオン製品に対して機能します。

リモートアップグレードまたはクラスタアップグレードの場合は、アップグレード処理中にアップグレードを実行する適切なクレデンシャルを所有していることを検証するために次の処理が実行されます。

- アップグレード先のクラスタシステムを選択すると、**NetBackup** はクラスタのすべてのノードに対する適切な管理クレデンシャルを所有しているかどうかを確認します。適切なクレデンシャルを所有していない場合は、そのシステムはリストに追加されません。
 - 適切なクレデンシャルを所有している場合は、ライセンスが必要かどうか **NetBackup** によって再度確認されます。必要なライセンスが入力されなかった場合は、そのシステムはリストに追加できません。そのノードでアップグレードするには有効なライセンスを入力する必要があります。無効なライセンスを入力すると、この画面は有効なライセンスを入力するまで表示されたままになります。
 - [NetBackup マスターサーバー (NetBackup Master Server)]をクリックしてマスターサーバーソフトウェアのアップグレードを続行します。
 - [NetBackup メディアサーバー (NetBackup Media Server)]をクリックしてメディアサーバーソフトウェアのアップグレードを続行します。
- 10 [NetBackup Web サービス (NetBackup Web Services)]画面で、[Web サービスパスワード (Web Services Password)]を入力します。

これは、**NetBackup Web** サービスのユーザーアカウントのパスワードです。このアカウントは、マスターサーバーをインストールする前に作成する必要があります。詳細情報の参照が可能です。

[NetBackup Web サービス (NetBackup Web Services)]画面で、アカウントの種類とアカウントの詳細を指定します。

どの種類のアカウントを使用する必要がありますか? (What types of accounts should we use?)

[ローカル (Local)]または[ドメイン (Active Directory) (Domain (Active Directory))]を選択します。

Web サーバーを、ローカルホストに存在するユーザーおよびグループアカウントに関連付ける場合は[ローカル (Local)]を選択します。

Web サーバーを、信頼済みの Windows ドメインに存在するユーザーおよびグループアカウントに関連付ける場合は[ドメイン (Active Directory) (Domain (Active Directory))]を選択します。

既存のアカウントの詳細とは何ですか (What are the existing account details)

次に示すように、情報を指定します。

- [ドメイン (Domain)]: アカウントの種類を選択を[ドメイン (Active Directory) (Domain (Active Directory))]にする場合は、ユーザーおよびグループアカウントが属するドメインの名前を指定します。
- [グループ (Group)]: Web サーバーに関連付けるグループアカウントの名前を指定します。
- [ユーザー (User)]: Web サーバーに関連付けるユーザーアカウントの名前を指定します。セキュリティ上の理由により、ホストの管理者権限を持つユーザーアカウントを指定しないでください。
- [パスワード (Password)]: [ユーザー (User)]フィールドでユーザーアカウントのパスワードを指定します。

詳細情報を参照できます。

『ベリタス NetBackup アップグレードガイド』を参照してください。

- 11** この手順はカスタムアップグレードにのみ適用されます。[Typical]インストールの場合は、次の手順へスキップします。

この手順では、[NetBackup Features]、[NetBackup Port Numbers]、および [NetBackup Services]を選択し構成する方法について記述します。

- [NetBackup ポート番号 (NetBackup Port Numbers)]
構成に必要な場合は、この画面からポート番号を変更できます。
NetBackup と他社製品が同じポートを共有しようとして競合が発生した場合、ポート番号の変更が必要になることがあります。また、ファイアウォールでセキュリティの問題を引き起こすポートの競合が発生している場合にも変更できます。ポート番号を変更するには、置き換えるポート番号を選択し、新しい番号を入力します。
[次へ (Next)]をクリックします。
- NetBackup サービス
この画面で、次の NetBackup サービスの起動アカウントおよび起動の種類を指定します。

Windows システムでローカルサーバー、リモートサーバー、クラスタサーバーのアップグレードを実行する

ログオン	<p>[ローカル システム アカウント (Local System account)]または[アカウント(account)]を指定します。</p> <p>デフォルトでは、[ローカル システム アカウント (Local System account)]が選択されるので、NetBackup は組み込みシステムアカウントを使います。このオプションを選択すると、その下のフィールドは無効になります。</p> <p>異なるシステムアカウントを指定する方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ [アカウント (This account)]を選択します。 ■ 次のフィールドにアカウント情報を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> ドメイン (Domain) ユーザー名 (Username) パスワード (Password)
スタートアップの種類	<p>このオプションは、NetBackup ホストを再起動する必要がある場合、NetBackup サービスが自動的に開始するかどうかを判断します。デフォルトは[Automatic]です。</p> <p>再起動後、NetBackup サービスを手動で開始するには、[Manual]を選択します。</p>
[インストール後にジョブに関連する NetBackup サービスを起動する (Start job-related NetBackup services following installation)]	<p>デフォルトでは、アップグレードが完了したらジョブに関連するサービスを自動的に開始する設定になっています。</p> <p>ジョブに関連するサービスが自動的に開始しないようにするには、ボックスをクリックしてチェックマークを外します。</p>
[安全な中止 (Safe Abort)]オプション	<p>このオプションは、アップグレードの一環として再起動が必要な場合にアップグレードを続行する方法を決めます。</p> <p>このオプションを選択すると、アップグレード処理で再起動が必要であると判断された場合にアップグレードは停止します。システムは元の状態にロールバックされます。</p> <p>このオプションを選択しないと、アップグレード処理で再起動が必要であると判断されてもアップグレードは続行されます。</p> <p style="text-align: center;">[次へ (Next)]をクリックします。</p>

12 [NetBackup System Names]画面で、次の情報を入力します。

マスターサーバー名 (Master Server Name)	マスターサーバーのインストールの場合は、ローカルコンピュータの名前を入力します。 メディアサーバーのインストールの場合は、この名前を、そのメディアサーバーが構成されるマスターサーバー名に変更する必要があります。 メモ: クラスタサーバーの場合は、このフィールドは[NetBackup Virtual Host Name]です。ベリタス社はこの値を変更しないことを推奨します。
追加サーバー (Additional Servers)	このサーバーと通信する追加の NetBackup マスターサーバーおよびメディアサーバーの名前を入力します。後で NetBackup をインストールするコンピュータの名前を含めます。 複数の名前を入力するには、それぞれの名前をカンマで区切るか、またはそれぞれの名前の後で Enter キーを押します。
メディアサーバー名 (Media server name)	このフィールドは NetBackup Enterprise メディアサーバーのインストールの場合にのみ表示されます。 メディアサーバーソフトウェアをインストールする場合、このフィールドはデフォルトでローカルサーバー名になります。
OpsCenter Server Name (省略可能)	OpsCenter は、NetBackup 用の Web ベースの管理ツールです。 OpsCenter サーバーを使用しているか、またはインストールする場合は、そのサーバーのサーバー名か IP アドレスをここに入力します。 クラスタサーバーには、仮想名を使わないでください。その代わりに、クラスタノードの実際のホスト名を使います。

[次へ (Next)]をクリックします。

13 リモートアップグレードの場合のみ、[Veritas NetBackup Remote Hosts]画面で NetBackup をインストールするホストを指定します。

- Windows Destination Systems
 [Windows Destination Computers]を右クリックし、ドロップダウンメニューから選択するか、または次の方式を使ってください。

Browse

NetBackup をアップグレードするホストのネットワークを検索するには、ここをクリックします。

- [Available Systems] ダイアログボックスで追加するコンピュータを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
- [Remote Computer Login Credentials] ダイアログボックスで、リモートコンピュータで使う NetBackup のアカウントのユーザー名、パスワード、ドメインを入力します。
- 複数のリモートコンピュータをアップグレードする場合は、[Remember User Name and Password] の隣にあるチェックボックスにチェックマークを付けます。このオプションを選択すると、各リモートコンピュータにこの情報を入力する必要がなくなります。クレデンシャルを指定したらホストノードを選択し、[Windows Destination Systems] リストに追加します。NetBackup のリモートアップグレードは、これらのノードで実行されます。インストール先のシステムを選択する場合、ローカルホストも忘れずに選択してください。

NetBackup では、システムを選択するたびに、システムおよびライセンスの確認が実行されます。たとえば、次のようにサーバーアップグレード先のシステムが選択した種類と一致するかどうかを確認されます。

- NetBackup がインストールされていない場合: リモートは検証済みと見なされます。
- NetBackup がすでにインストールされている場合: そのシステムのアップグレードの種類と要求しているアップグレードの種類を比較します。
- 無効な組み合わせの場合: 問題があることが通知され、そのシステムは選択できません。無効な組み合わせの例として、すでにマスターサーバーになっているリモートシステムにリモート管理コンソールをインストールしようとしている場合があります。
- リモートシステムがサポート外のプラットフォームやレベルの場合: 問題が通知され、そのシステムは選択できません。

アップグレード手順で、リモートシステムに対する適切な管理クレデンシャルを所有しているかどうかを検証されます。管理クレデンシャルを所有していない場合は、[Enter Network Password] 画面が表示され、管理者のユーザー名およびパスワードの入力を求められます。

[OK] をクリックし、インストール先のシステムの選択を続けます。

選択するノードごとに、この処理を繰り返します。ユーザー名およびパスワードは保持することができます。その場合、ユーザー名またはパスワードが無効な場合にのみ、そのユーザー名またはパスワードが求められるようになります。

次に、クラスタ化された環境でのプッシュインストールに関連する注意事項を示します。

- NetBackup は、複数のノードでアップグレードできます。ただし、クラスタのノード数に対する制限は、NetBackup ではなくクラスタサービスによって設定されます。
- 言語パッケージとその他の NetBackup のアドオン製品は、プッシュ方式ではアップグレードできません。アドオン製品は、クラスタグループのノードごとにアップグレードする必要があります。これらの製品のアップグレード方法については、各製品の NetBackup マニュアルを参照してください。

Browse (続き)

(続き)

- NetBackup は、アップグレードの開始時に入力したライセンスのみを他のノードにプッシュ型で転送します。ライセンスによってアドオン製品を使用できるようになります。アドオン製品がすでにインストールされているノードに NetBackup をプッシュインストールすると、ライセンスはその製品に対して機能します。
- [OK] をクリックします。

[Install]をクリックするとアップグレード処理が開始され、アップグレードの進捗状況を示す画面が表示されます。この処理には数分かかる場合があります。

リモートアップグレードまたはクラスタアップグレードの場合のみ、ダイアログボックスでシステムを右クリックしてアップグレードの状態を確認します。アップグレードは 5 つまで並行して行われます。1 つのアップグレードが完了すると別のアップグレードが開始し、最大 5 つのアップグレードが進行中になります。

- 16 リモートアップグレードの場合のみ、すべてのリモートアップグレードが完了したら[完了 (Finish)]をクリックします。
- 17 [Installation Complete]画面で、次のオプションから選択します。

View installation log file

アップグレードログファイルには、詳しいインストール情報とエラーが起きたかどうかが表示されます。

次の場所にあるアップグレードログを確認します。

```
%ALLUSERSPROFILE%\¥Veritas¥NetBackup¥InstallLogs¥
```

メモ: 複数のコンピュータにリモートアップグレードを実行する場合は、このオプションを選択するとローカルコンピュータのログのみが表示されます。アップグレードするように選択した各コンピュータにそれぞれのアップグレードログファイルが作成されます。リモートコンピュータのログファイルを表示するためには、Windows エクスプローラのウィンドウを開き、¥¥<COMPUTERNAME> と入力します。

アップグレードログを検索し、次のエラーが表示されているかどうかを確認します。

- Return Value 3 を含む文字列。
- 次のように色分けされている重大なログメッセージ:
黄色 = 警告。
赤 = エラー。

Finish

アップグレードを完了するには次のいずれかの操作をします。

- すべてのサーバーのソフトウェアをアップグレードした場合は、[Launch NetBackup Administration Console now]の隣にあるチェックボックスにチェックマークを付けて[完了 (Finish)]をクリックします。
NetBackup 管理コンソールを使用して構成ウィザードを起動すると、NetBackup 環境を構成できます。
- アップグレードするサーバーソフトウェアが他にも存在する場合は、[完了 (Finish)]をクリックします。
次のコンピュータに移動して、必要なサーバーソフトウェアをアップグレードできます。

- 18 NetBackup クラスタ設定を手動で修正した場合や外部スクリプトで修正した場合は、NetBackup クラスタレジストリに変更が正しく反映されていることを確認してください。質問がある場合は、ベリタス社のテクニカルサポートにお問い合わせください。
- 19 バイナリが正常にインストールされました。インストール後の手順に進みます。

NetBackup 8.1.1 へのアップグレードのインストール後の手順

「[NetBackup 8.1.1 へのアップグレードのインストール後の手順]」では、NetBackup をアップグレードしてイメージメタデータの移行を完了するためのインストール後の手順を説明します。

NetBackup 8.1.1 へのアップグレードのインストール後の手順

- 1 利用可能な NetBackup 8.1.1 メンテナンスリリースを確認します。メンテナンスリリースは NetBackup 8.1.1 の後にリリースされる非常に重要な修正が含まれます。ベリタスはアップグレードアクティビティ時に最新の利用可能なメンテナンスリリースをインストールすることを推奨します。

最新の NetBackup 8.1.1 メンテナンスリリースにアクセスする方法

- NetBackup SORT の Web サイトに移動します。
<https://sort.veritas.com/netbackup>
- [インストールとアップグレードのチェックリスト (Installation and Upgrade Checklist)] セクション:
 - [製品 (Product)] で、正しい製品 (NetBackup Enterprise Server または NetBackup Server) を選択します。
 - [これからインストールまたはアップグレードする製品のバージョン (Product version you are installing or upgrading to)] で、NetBackup 最新バージョンを指定します。
 - [プラットフォーム (Platform)] で、アップグレードするサーバーのプラットフォームを選択します。
 - [プロセッサ (Processor)] で、サーバーのプロセッサを指定します。
 - [アップグレードされる製品のバージョン (Product version you are upgrading from (Optional))] で、アップグレードするサーバーの NetBackup の現在のバージョンを選択します。
 - [チェックリストの生成 (Generate Checklist)] をクリックします。
- [アップグレード情報 (Upgrade Information)] に *version_number* [ダウンロードリンク (Download Links)] のハイパーリンクがあります。Maintenance Release のハイパーリンクをクリックします。
- メンテナンスリリースが利用できない場合は、bprd を終了後に再起動します。bprd が再起動したら続行します。
UNIX および Linux の場合: `/usr/opensv/netbackup/bin/bprd`
Windows の場合: `install_path¥NetBackup¥bin¥bprd`
- Maintenance Release が利用可能な場合は、すぐにダウンロードします。

- すべての NetBackup 処理およびサービスを停止して、インストールの準備をします。以下に示すコマンドを使います。
UNIX および Linux の場合: `/usr/opensv/netbackup/bin/bp.kill_all`
Windows の場合: `install_path¥NetBackup¥bin¥bpdown -f`
- Maintenance Release をインストールします。
- 以下のコマンドで NetBackup を再起動します。
UNIX システムおよび Linux システムの場合:
`/usr/opensv/netbackup/bin/bp.start_all`
Windows システムの場合: `install_path¥NetBackup¥bin¥bpup -f`
- 2 ディザスタリカバリパッケージのパスフレーズを設定します。パスフレーズを設定しないと、カタログバックアップが失敗します。詳細情報を参照できます。『Veritas NetBackup トラブルシューティングガイド』で、パスフレーズの情報を参照してください。
- 3 システム上で NetBackup とやり取りするすべてのアプリケーションを起動します。この手順には、バックアップ中のデータベースまたはシステムコンポーネントが含まれます。
- 4 クラスタ化されたマスターサーバーがある場合は、安全な通信のため非アクティブノードで証明書を生成します。詳細情報を参照できます。
『ベリタス NetBackup アップグレードガイド』を参照してください。
- 5 (該当する場合) この手順はクラスタのインストールにのみ適用されます。このコンピュータがクラスタマスターサーバーのアップグレードでない場合は、次のステップに進みます。
クラスタの他のノードを更新します。次に示す標準のクラスタアップグレード処理によりクラスタ内のその他のマスターサーバーノードを NetBackup 8.1.1 に更新できます。詳しくは、『Veritas NetBackup マスターサーバーのクラスタ化管理者ガイド』を参照してください。

NetBackup リソースがオンラインでない場合はオンラインにします。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

- 6 NetBackup 8.1.1 にアップグレードする必要があるメディアサーバーがある場合には、この時点でアップグレードできます。メディアサーバーのアップグレードを開始したら、メディアサーバーのアップグレードが完了するまでこの手順を続行しないでください。

メモ: NetBackup では、特定のユースケースで正しく機能するようにメディアサーバーでセキュリティ証明書が必要です。このトピックに関する詳細情報を参照できます。

『ベリタス NetBackup アップグレードガイド』を参照してください。

このトピックに関する詳細情報を参照できます。

『ベリタス NetBackup アップグレードガイド』を参照してください。

- 7 次の項目をこの順序で再度有効にします。
 - すべてのディスクステージングストレージユニット。
 - すべての NetBackup ポリシー。
 - すべてのストレージライフサイクルポリシー (SLP)。
 - このマスターサーバーの OpsCenter データ収集機能。
- 8 (該当する場合) お客様の環境でクラウドストレージを使用している場合、読み取りおよび書き込みのバッファサイズを更新する必要があります。詳細情報を参照できます。

『ベリタス NetBackup アップグレードガイド』を参照してください。
- 9 (該当する場合) NetApp クラスタを使っている場合は、追加の手順が必要なことがあります。詳細情報を参照できます。

『ベリタス NetBackup アップグレードガイド』を参照してください。
- 10 (該当する場合) NetBackup 環境でクラウドストレージを使用する場合は、クラウド構成ファイルを更新する必要があります。詳細情報を参照できます。
- 11 バックアップ環境を監視し、通常の NetBackup 操作が再開されていることを確認します。

- 12** 所要時間とバックアップ時間帯の許容範囲内で、まだアップグレードしていないメディアサーバーとクライアントをアップグレードします。クライアントをアップグレードする前に、メディアサーバーをアップグレードしてください。NetBackup 8.1 クライアントを 8.1 以前のメディアサーバーにバックアップまたはリストアすることはできません。

『ベリタス NetBackup アップグレードガイド』を参照してください。

クライアントのアップグレードはクライアントのインストールと同じです。インストールのヘルプについては、『NetBackup インストールガイド - UNIX および Windows』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

メモ: すべてのスクリプトは、ローカルに格納してローカルで実行する必要があります。すべてのユーザーにスクリプトの書き込み権限を与えることは推奨しません。ネットワークまたはリモートの場所からスクリプトを実行することは許可されません。

NetBackup をアンインストールする際は、NetBackup の db_ext (UNIX の場合) または dbext (Windows の場合) に格納されている作成済みのスクリプトを保護する必要があります。

承認を受けた場所とスクリプトについて詳しくは、ナレッジベースの記事を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/000126002>

お使いのデータベースエージェントについて詳しくは、当該エージェントに関するマニュアルを確認してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

-
- 13** その他のアップグレード手順を実行します。このトピックに関する詳細情報を参照できます。

『ベリタス NetBackup アップグレードガイド』を参照してください。

UNIX/Linux アップグレード クイックスタートガイド

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 8.1.1 へのアップグレードのプレインストール手順](#)
- [NetBackup 8.1.1 への UNIX/Linux サーバーソフトウェアのアップグレード](#)
- [NetBackup 8.1.1 へのアップグレードのインストール後の手順](#)

NetBackup 8.1.1 へのアップグレードのプレインストール手順

次の手順を使って環境を NetBackup 8.1.1 にアップグレードします。

ベリタス社は、ガイド付き方式に必要な追加手順を実行できるようにするツールを開発しました。詳しくは、**Business Critical Services (BCS)** の担当者に連絡してください。

メモ: NetBackup マスターサーバーをバージョン 8.1.1 に更新する前に NetBackup OpsCenter をバージョン 8.1.1 に必ず更新してください。OpsCenter のデータ収集を無効にする必要もあります。詳しくは、『NetBackup OpsCenter 管理者ガイド』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

64 ビットの Windows プラットフォームで OpsCenter をアップグレードする場合には既知の問題があることに注意してください。言語パックまたは Maintenance Pack をインストールしている場合は、アップグレードに失敗する可能性があります。この問題に関する詳しい情報を参照できます。

<http://www.veritas.com/docs/TECH211070>

特定のマスターサーバーの OpsCenter データ収集を無効にすることができます。データ収集を無効にする場合は、OpsCenter サーバーの前にマスターサーバーをアップグレードできます。データ収集を無効にすると、既知の問題が発生します。データ収集の無効化とそのリスクに関して詳細情報を参照できます。

『ベリタス NetBackup アップグレードガイド』を参照してください。

メモ: Global Cluster Option (GCO) を使ってグローバルにクラスタ化されたマスターサーバーを含む NetBackup のインストールでは、このマニュアルのアップグレード計画のガイドラインに従ってください。これらのサーバーをアップグレードする手順については、次のドキュメントを参照してください:

https://www.veritas.com/support/en_US/article.100041191

NetBackup 8.1.1 にアップグレードしてイメージメタデータの移行を完了するためのインストール前手順

- 1 SORT ツールを使用して環境チェックを実行します。
『ベリタス NetBackup アップグレードガイド』を参照してください。
- 2 NetBackup の各自の環境に応じて通常実行するアップグレード前のタスクを実行します。次に例を示します。
 - すべてのカスタマイズされたスクリプトやサードパーティのスクリプトを停止します。
 - クラスタ固有のタスクを実行します。
 - ホットカタログバックアップを実行します。
 - このマスターサーバーの OpsCenter データ収集機能を無効にします。
 - すべてのストレージライフサイクルポリシー (SLP) を無効にします。
 - NetBackup のすべてのポリシーを無効にします。

- NetBackup 7.5.x より前のすべての環境ですべてのディスクステージングストレージユニットを無効にします。
- クラスタシステムの場合のみ、次の NetBackup リソースをオフラインにします。
 - Windows Server Failover Clusters (WSFC): ディスク、仮想名、仮想 IP アドレスを除くすべての NetBackup グループのリソースをオフラインにします。クラスタアドミニストレータインターフェースを使用して NetBackup グループのリソースをオフラインにする方法については、Microsoft のクラスタアドミニストレータに関するマニュアルを参照してください。
 - Veritas Cluster Server (VCS) クラスタ: NetBackup リソースをオフラインにします。

次のコマンドで `-persist` オプションを使用して NetBackup グループを固定します。

```
hagr -freeze NetBackup_service_group -persistent
```

これらのリソースをオフラインで取得するコマンドについて詳しくは、『Veritas NetBackup マスターサーバーのクラスタ化管理者ガイド』を参照してください。

- 3 (該当する場合) NetApp クラスタをノードスコープモードから Vserver モードに変更する場合は、各ファイラの詳しいイメージレポートを作成します。このレポートは `bpimagelist` コマンドを使って生成できます。次に利用可能なオプションの一例を挙げます。環境に合わせて必要なオプションを使います。

```
bpimagelist -client ndmp_host_name
```

- 4 NetBackup 8.0 より、NetBackup マスターサーバーには、重要なバックアップ操作をサポートするための構成済み Tomcat Web サーバーが含まれます。この Web サーバーは、権限が制限されているユーザーアカウント要素の下で動作します。これらのユーザーアカウント要素は、各マスターサーバー (またはクラスタ化されたマスターサーバーの各ノード) で使用できる必要があります。詳細情報を参照できます。

『Veritas NetBackup アップグレードガイド』を参照してください。

メモ: Veritas は、NetBackup Web サービスに使用するユーザーアカウントの詳細を保存することを推奨します。マスターサーバーのリカバリでは、NetBackup カタログのバックアップが作成されたときに使われたものと同じ NetBackup Web サービスのユーザーアカウントとクレデンシヤルが必要です。

メモ: セキュアモードで NetBackup PBX を実行する場合は、Web サービスユーザーを PBX の権限を持つユーザーとして追加します。PBX モードの判別と、正しくユーザーを追加する方法について詳しくは、次をご覧ください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.000115774

- 5 NetBackup とやり取りするシステムのすべてのアプリケーションを停止します。この手順には、バックアップ中のデータベースまたはシステムコンポーネントが含まれます。これらのアプリケーションの停止に失敗すると、予期しない動作が発生する可能性があります。観測される動作には中止されたアップグレードやアプリケーションエラーが含まれます。

Oracle ユーザーの場合、アップグレードする前にデータベースおよびリスナープロセスを停止する必要があります。

Oracle データベースを停止できない場合、手順は Oracle データベースがアクティブのまま NetBackup をインストールできる手順を利用できます。このトピックに関する詳細情報を参照できます。

<http://www.veritas.com/docs/TECH158276>

- 6 NetBackup のすべてのサービスを停止します。

- UNIX システムの場合: `/usr/opensv/netbackup/bin/bp.kill_all`
- Windows システムの場合: `install_path\NetBackup\bin\bpdown -f`

プレインストール手順は完了です。NetBackup のバイナリのアップグレードに進みます。

NetBackup 8.1.1 への UNIX/Linux サーバーソフトウェアのアップグレード

バックアップが実行されない時間にアップグレードおよび再構成をスケジュールすることをお勧めします。ただし、アップグレードの手順では、バックアップがアップグレードの妨げにならないようにするため、すべてのポリシーを無効にするように指示されます。

NetBackup のアップグレードおよび再構成中にバックアップが実行されないようにポリシーを一時的に変更することもできます。

UNIX/Linux サーバーソフトウェアを 8.1.1 にアップグレードする方法

- 1 root ユーザーとしてサーバーにログインします。
- 2 NetBackup 管理コンソールが開いている場合は、ここで閉じる必要があります。
- 3 (該当する場合) クラスタ環境では次のタスクを実行します。
 - 必要に応じて、`bp.conf` と `vm.conf` ファイルを次のように編集します。
REQUIRED_INTERFACE エントリがある場合は、CLUSTER_NAME エントリに置換します。それ以外の場合は、新しい CLUSTER_NAME エントリを追加します。このエントリは仮想サーバー名として定義する必要があります。
マスターサーバーの場合は、最初の SERVER エントリが `bp.conf` ファイルの CLUSTER_NAME エントリに一致することを確認してください。
 - NetBackup グループをオフラインにします。以下に示すコマンドを使います。
`/opt/VRTSvcs/bin/hares -offline`

- 非アクティブノードのアップグレード中にマイグレーションが行われないようにするために、NetBackup グループをフリーズします。以下に示すコマンドを使います。

```
/opt/VRTSvcs/bin/hagrp -freeze group -persistent
```

- VCS クラスタが構成されている場合、Cluster Manager インターフェースまたはコマンドラインを使用して NetBackup グループをフリーズできます。
- クラスタのアップグレードに進む前に、他のクラスタアップグレード要件について『NetBackup マスターサーバーのクラスタ化管理者ガイド』を参照してください。
<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

- 4 Solaris システムの場合はアップグレードスクリプトを実行すると、変更した可能性があるすべての NetBackup スクリプトが削除されます。

Solaris システム以外では、アップグレードスクリプトを実行すると第 1 章で説明していない修正済み NetBackup スクリプトが削除されます。このトピックに関する詳細情報を参照できます。

『ベリタス NetBackup アップグレードガイド』を参照してください。

変更したファイルで、保持する必要があるファイルを保存します。

- 5 (該当する場合) AIX システムの場合は、このステップでロボット制御のパスが削除されます。AIX クラスタ環境では、この手順をクラスタ内のすべてのノードで実行する必要があります。

ロボット制御のパスについて詳しくは、『NetBackup デバイス構成ガイド UNIX、Windows および Linux』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

- 次のように ovpass ドライバを削除します。

```
/usr/opensv/volmgr/bin/driver/remove_ovpass
```

- 6 アップグレードスクリプトを開始するには、次のいずれかの方法を使用します。

DVD

- ドライブに適切なプラットフォームの NetBackup サーバー DVD を挿入します。
内容を識別するには、DVD のラベルを確認します。
『ベリタス NetBackup アップグレードガイド』を参照してください。
- 必要に応じて、DVD をマウントします。
『ベリタス NetBackup アップグレードガイド』を参照してください。
- 次のコマンドを入力します。

```
dvd_directory/install
```

dvd_directory は、DVD にアクセス可能なディレクトリのパスです。

ESD イメージ (ダウンロード済みファイル)

- インストールイメージが存在する場所に移動します。
- 次のコマンドを入力します。

```
./install
```

- 7 インストールスクリプトのプロンプトに従って、NetBackup サーバーバイナリをインストールします。
- 8 スクリプトが終了したら、バイナリが正常にインストールされています。
インストール後の手順に進みます。

NetBackup 8.1.1 へのアップグレードのインストール後の手順

「**NetBackup 8.1.1 へのアップグレードのインストール後の手順**」では、NetBackup をアップグレードしてイメージメタデータの移行を完了するためのインストール後の手順を説明します。

NetBackup 8.1.1 へのアップグレードのインストール後の手順

- 1 利用可能な NetBackup 8.1.1 メンテナンスリリースを確認します。メンテナンスリリースは NetBackup 8.1.1 の後にリリースされる非常に重要な修正が含まれます。ベリタスはアップグレードアクティビティ時に最新の利用可能なメンテナンスリリースをインストールすることを推奨します。

最新の NetBackup 8.1.1 メンテナンスリリースにアクセスする方法

- NetBackup SORT の Web サイトに移動します。
<https://sort.veritas.com/netbackup>

- [インストールとアップグレードのチェックリスト (Installation and Upgrade Checklist)] セクション:
 - [製品 (Product)] で、正しい製品 (NetBackup Enterprise Server または NetBackup Server) を選択します。
 - [これからインストールまたはアップグレードする製品のバージョン (Product version you are installing or upgrading to)] で、NetBackup 最新バージョンを指定します。
 - [プラットフォーム (Platform)] で、アップグレードするサーバーのプラットフォームを選択します。
 - [プロセッサ (Processor)] で、サーバーのプロセッサを指定します。
 - [アップグレードされる製品のバージョン (Product version you are upgrading from (Optional))] で、アップグレードするサーバーの NetBackup の現在のバージョンを選択します。
 - [チェックリストの生成 (Generate Checklist)] をクリックします。
 - [アップグレード情報 (Upgrade Information)] に *version_number* [ダウンロードリンク (Download Links)] のハイパーリンクがあります。Maintenance Release のハイパーリンクをクリックします。
 - メンテナンスリリースが利用できない場合は、bprd を終了後に再起動します。bprd が再起動したら続行します。
 UNIX および Linux の場合: /usr/opensv/netbackup/bin/bprd
 Windows の場合: *install_path*\NetBackup\bin\bprd
 - Maintenance Release が利用可能な場合は、すぐにダウンロードします。
 - すべての NetBackup 処理およびサービスを停止して、インストールの準備をします。以下に示すコマンドを使います。
 UNIX および Linux の場合: /usr/opensv/netbackup/bin/bp.kill_all
 Windows の場合: *install_path*\NetBackup\bin\bpdown -f
 - Maintenance Release をインストールします。
 - 以下のコマンドで NetBackup を再起動します。
 UNIX システムおよび Linux システムの場合:
 /usr/opensv/netbackup/bin/bp.start_all
 Windows システムの場合: *install_path*\NetBackup\bin\bpup -f
- 2 ディザスタリカバリパッケージのパスフレーズを設定します。パスフレーズを設定しないと、カタログバックアップが失敗します。詳細情報を参照できます。『Veritas NetBackup トラブルシューティングガイド』で、パスフレーズの情報を参照してください。

- 3 システム上で **NetBackup** とやり取りするすべてのアプリケーションを起動します。この手順には、バックアップ中のデータベースまたはシステムコンポーネントが含まれます。
- 4 クラスタ化されたマスターサーバーがある場合は、安全な通信のため非アクティブノードで証明書を生成します。詳細情報を参照できます。
 『ベリタス **NetBackup** アップグレードガイド』を参照してください。
- 5 (該当する場合) この手順はクラスタのインストールにのみ適用されます。このコンピュータがクラスタマスターサーバーのアップグレードでない場合は、次のステップに進みます。
 クラスタの他のノードを更新します。次に示す標準のクラスタアップグレード処理によりクラスタ内のその他のマスターサーバーノードを **NetBackup 8.1.1** に更新できます。詳しくは、『**Veritas NetBackup** マスターサーバーのクラスタ化管理者ガイド』を参照してください。
 NetBackup リソースがオンラインでない場合はオンラインにします。
<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>
- 6 **NetBackup 8.1.1** にアップグレードする必要があるメディアサーバーがある場合には、この時点でアップグレードできます。メディアサーバーのアップグレードを開始したら、メディアサーバーのアップグレードが完了するまでこの手順を続行しないでください。

メモ: **NetBackup** では、特定のユースケースで正しく機能するようにメディアサーバーでセキュリティ証明書が必要です。このトピックに関する詳細情報を参照できます。

『ベリタス **NetBackup** アップグレードガイド』を参照してください。

このトピックに関する詳細情報を参照できます。

『ベリタス **NetBackup** アップグレードガイド』を参照してください。

- 7 次の項目をこの順序で再度有効にします。
 - すべてのディスクステージングストレージユニット。
 - すべての **NetBackup** ポリシー。
 - すべてのストレージライフサイクルポリシー (SLP)。
 - このマスターサーバーの **OpsCenter** データ収集機能。

- 8 (該当する場合) お客様の環境でクラウドストレージを使用している場合、読み取りおよび書き込みのバッファサイズを更新する必要があります。詳細情報を参照できます。
『ベリタス NetBackup アップグレードガイド』を参照してください。
- 9 (該当する場合) NetApp クラスタを使っている場合は、追加の手順が必要なことがあります。詳細情報を参照できます。
『ベリタス NetBackup アップグレードガイド』を参照してください。
- 10 (該当する場合) NetBackup 環境でクラウドストレージを使用する場合は、クラウド構成ファイルを更新する必要があります。詳細情報を参照できます。
- 11 バックアップ環境を監視し、通常の NetBackup 操作が再開されていることを確認します。

- 12** 所要時間とバックアップ時間帯の許容範囲内で、まだアップグレードしていないメディアサーバーとクライアントをアップグレードします。クライアントをアップグレードする前に、メディアサーバーをアップグレードしてください。NetBackup 8.1 クライアントを 8.1 以前のメディアサーバーにバックアップまたはリストアすることはできません。

『ベリタス NetBackup アップグレードガイド』を参照してください。

クライアントのアップグレードはクライアントのインストールと同じです。インストールのヘルプについては、『NetBackup インストールガイド - UNIX および Windows』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

メモ: すべてのスクリプトは、ローカルに格納してローカルで実行する必要があります。すべてのユーザーにスクリプトの書き込み権限を与えることは推奨しません。ネットワークまたはリモートの場所からスクリプトを実行することは許可されません。

NetBackup をアンインストールする際は、NetBackup の db_ext (UNIX の場合) または dbext (Windows の場合) に格納されている作成済みのスクリプトを保護する必要があります。

承認を受けた場所とスクリプトについて詳しくは、ナレッジベースの記事を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/000126002>

お使いのデータベースエージェントについて詳しくは、当該エージェントに関するマニュアルを確認してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

-
- 13** その他のアップグレード手順を実行します。このトピックに関する詳細情報を参照できます。

『ベリタス NetBackup アップグレードガイド』を参照してください。